

新たな道の駅の可能性は

町長 道の駅の形態に限らず魅力向上を図る



録画を配信

道の駅との相乗効果を生むであろう町の南側地域の更なる活性化を訴えました。

新・道の駅の可能性

道の駅の現状と課題

問 どりいむ農園直

問 白鷹ヤナ公園の

売所の集客実績や6次産業化拠点施設の建設を踏まえ、町の南側地域に新たな道の駅を整備する可能性について伺う。

集客数と経済効果をどう評価しているか。

町長 道の駅という形態に限らず地域の活性化に向けてどのような在り方が適しているか検討し、魅力向上を図っていききたい。

町長 令和6年度は約2万人。観光拠点として一定の役割を果たしたが、売り上げは減少し機能や目的も時代とともに変化しており、再評価が必要と考える。

問 近隣と比較し集客数にだいぶ開きがあるがどう考えるか。

町長 実態を見ると受託団体とかなり真剣に話をする必要がある。



ささはら としかず
笹原俊一 議員

道の駅集客数（令和6年度）

白鷹ヤナ公園	約 2万人
川のみなと長井	約49万人
あさひまち	約34万人
おおえ（R 6.10～）	約22万人
いいで（R 5年度）	約33万人

【参考】

どりいむ農園直売所	約28万人
-----------	-------

白鷹の魅力発信

問 ヤナ場、最上川

舟運、紅花、果樹などを活用した観光ルートや体験型コンテンツの導入について伺う。

町長 観光戦略として地域資源を活用した体験・滞在型観光を推進する「白鷹町観光交流推進計画」を策定し取り組んでいる。

住民参加の協議会を

問 住民・事業者・

行政の協働による協議会設立と、イベント企画・商品開発・観光戦略推進など、道の駅を地域住民と共に盛り上



さらなる魅力づくりに期待

げる仕組みづくりが必要と考えるがどうか。

町長 住民参加の活性化については、既存イベントへの協力に加え、協議会設置や民間との連携など多様な方法で地域活力を高める取り組みを検討していく。

問 6次産業化拠点施設を活用した滞在型観光の推進について、町の具体的な方針を伺いたい。

商工観光課長 拠点施設を活用し、連携・参画を通じて町の活性化を図る方針である。

私もひとこと

イベントの有無にかかわらず年間通じて「白鷹町と言えばここ」という集客施設がひとつ必要だ。（70代男性）

問 施設完成後、観光振興と交流人口増加をテーマに地域住民と協議する考えはあるか。

農政課長 どりいむ農園直売所や地域の方々と連携し、農作物のロス削減や冬季の所得向上に加え、地域のにぎわい創出も視野に整備を進めていく。今後は地域の声を反映しながら、関連施設と連携した運営を検討していく。